

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成28年12月～令和4年3月（5年4月）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市は、新庁舎の建設等を契機として第3期計画を策定し、①まちの顔づくり、②暮らしの再生、③にぎわいの再生の3つのテーマのもと、各種事業に取り組んできた。

特に①まちの顔づくりとして、新庁舎の建設や武生中央公園の再整備、市民プラザたけふの整備といったハード整備に重点を置き、平成30年に再整備を終えた武生中央公園は、年間100万人を超える来場者が訪れる県内有数のスポットとなり、中心市街地の賑わい創出を牽引する施設となっている。

また、中心市街地の都市機能の中核である新庁舎および交流施設においては、本格的な供用開始が新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大が始まった時期ではあったものの、多くの市民に利用されており、整備の効果が着実に現れているものと認識している。加えて、新庁舎前に整備した庁舎前ひろばでは、新型コロナウイルス感染拡大の状況下でも参加しやすい屋外でのイベントや、キッチンカーの誘致を継続的に実施することで、新たな中心市街地の賑わいが創出されているところである。

中心市街地での商業振興については、平成27年に設立した第3セクター「まちづくり武生株式会社（以降、まちづくり武生㈱という。）」が空き家や空き店舗のエリアリノベーションを推進し、これまで30件以上の新規開業に結びついており、新庁舎の完成などと合わせ、中心市街地エリアの価値が高まっていることがうかがえる。

中心市街地活性化協議会をはじめ、関係機関が連携して作り上げてきたこれらの取り組みを絶やすことなく、引き続き連携を深め、中心市街地の活性化を継続的に図っていくことが重要である。

今後は、武生中央公園の来場者や北陸新幹線の開業を見据え、中心市街地の回遊性の向上に向けた取り組みを積極的に実施していく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成27年度 (計画前年度)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)	令和3年度 (6年目)
人口	5,682	5,478	5,447	5,307	5,217	5,094
人口増減数	△80	△99	△31	△140	△90	△123
自然増減数	△99	△56	△94	△96	△63	△98
社会増減数	19	△43	63	△44	△27	△25
転入者数	225	178	197	175	199	225

(2) 地価

(単位：円/㎡) ※国土交通省公示価格

(中心市街地 区域)	平成27年度 (計画前年度)	平成29年度 (2年目)	平成30年度 (3年目)	令和元年度 (4年目)	令和2年度 (5年目)	令和3年度 (6年目)
中心市街地 商業地域平均	53,500	52,150	50,950	50,200	49,700	49,400
商業地域① (府中1)	61,800	61,500	60,300	59,800	59,700	59,700
商業地域 (国府1)	45,200	42,800	41,600	40,600	39,700	39,100

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

①活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

第3期計画に位置付けられた102事業のうち45事業が完了し、55事業が継続実施、2事業が未実施となり、概ね順調に事業が進捗・完了した。

主な事業として、武生中央公園の再整備が完了(平成30年度)し、本市ゆかりの絵本作家かさとし氏の世界観を表現した空間整備が人気を博し、現在も多くの家族連れで賑わいを見せるなど、セントラルパークとして中心市街地の活性化に大きく寄与している。

また、新庁舎建設事業および市民プラザたけふ整備事業により、中心市街地の中核となる施設が整備され、市民活動および行政機能の拠点として多くの市民に利用されている。新庁舎前に整備した庁舎前ひろばについては、残念ながら新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大と供用開始が重なり、想定していた利用はできていないものの、キッチンカーの誘致など状況に合わせた事業の実施を検討するなど、中心市街地の賑わい創出の場所としての認知されてきている。

ソフト事業についても順調に進捗しており、中心市街地エリアでは武生中央公園を中心として多くのイベントが開催されており、新型コロナウイルス感染症拡大の終了後にはさらなる賑わいが創出されることが予想される。

次に、商業活性化については、まちづくり武生(株)の設立を契機として、行政、商工会議所、商店街等の連携が強化されたとともに、まちづくり武生(株)がエリアリノベーションの考えに基づき誘致活動等を進めたことにより、エリアの価値が高まり、飲食店を中心として、魅力の高い店舗の開業が続いている。

基本計画に定めた4つの指標のうち「市民交流施設の利用者数」「活性化に寄与する市民活動の回数」「施策によるまちなか開業件数」については、施設整備の効果や、まちづくり武生(株)の取組みにより目標を達成したが、「施策による移住者数」については、共同住宅の建設可能な土地の減少や居住誘導区域全体への居住施策の強化により中心市街地内での実績が伸び悩み目標にわずかに届かなかった。

全体としては、ハード整備に重点をおいた第3期計画の目標は達成し、整備されたハードの利用も順調に推移している。また本計画の推進のために設立したまちづくり武生(株)についても、十分な実績を挙げていることなどから、中心市街地の活性化は着実に図られているといえる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

第3期中心市街地活性化基本計画に基づいた越前市新庁舎の建設や武生中央公園の整備により、中心市街地のにぎわい創出に大いに貢献していると考えます。基本計画の目標指標である「まちの顔づくり」「暮らしの再生」「にぎわいの再生」に向けた目標数値は、「まちの顔づくり」と「にぎわいの再生」が達成されており、「暮らしの再生」は95%超の達成率で、全体として概ね達成されている。「暮らしの再生」における住宅施設については、今後もまちなか定住へ繋げていくためにも、空き家・空き室など既存ストックの確保・利活用の推進が必要である。

まちづくり武生(株)では、商工会議所や地元商店街の連携のもと、中心市街地活性化エリア内での「賑わい創出」「商業振興」「まちなか居住促進」を事業の柱に取組みが進められており、中心市街地にある廃業した店舗の再生に取り組み、順調に成果を上げている。

以上により、令和3年度の基本計画は概ね順調に推移しているものと評価する。

令和3年度で基本計画は終了したが、今後も中心市街地の活性化を進めるため、基本計画の取り組みの効果・成果が生まれるような新たなプランの推進を期待する。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ①活性化した
- ②若干活性化した
- ③計画策定時と変化なし
- ④計画策定時より悪化

【詳細を記載】

(1) 中心市街地活性化に関する市民アンケート

調査期間：令和3年7月27日から8月13日

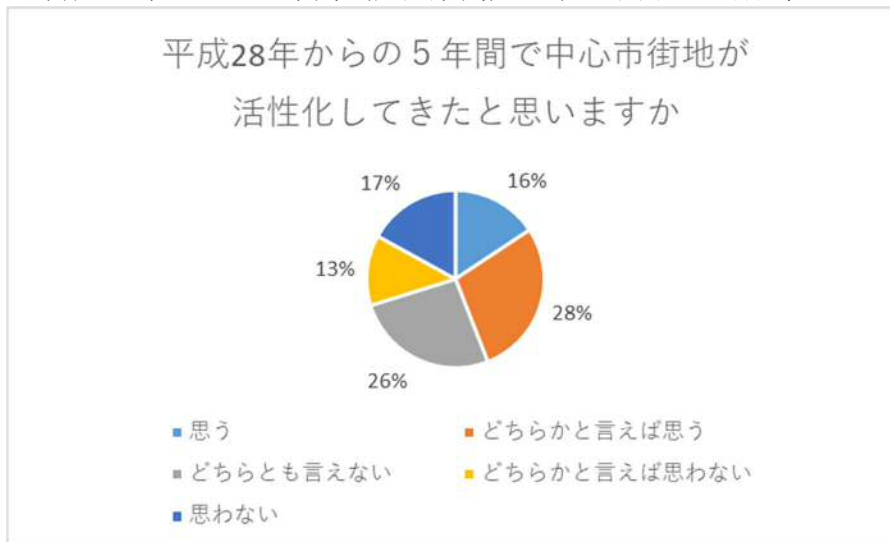
調査方法：① 中心市街地区域内および隣接地区に居住する18歳以上の市民 1,000人

② ①以外の地区に居住する18歳以上の市民 1,000人

を無作為抽出し、アンケートを送付（インターネットでの回答可）。

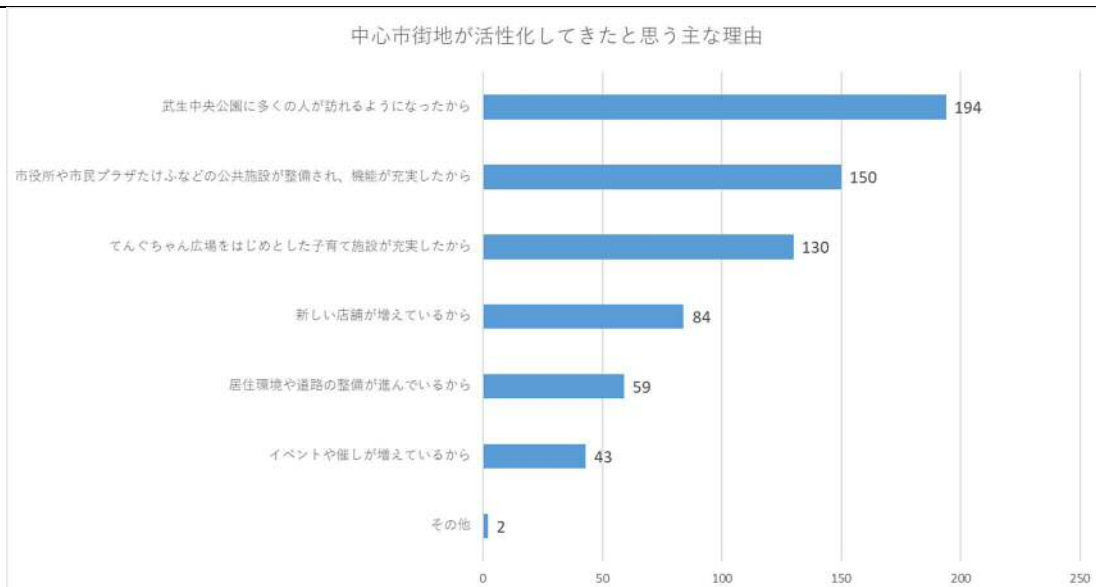
有効サンプル数：642人

○平成28年からの5年間（計画期間）で中心市街地が活性化してきたと思うか。



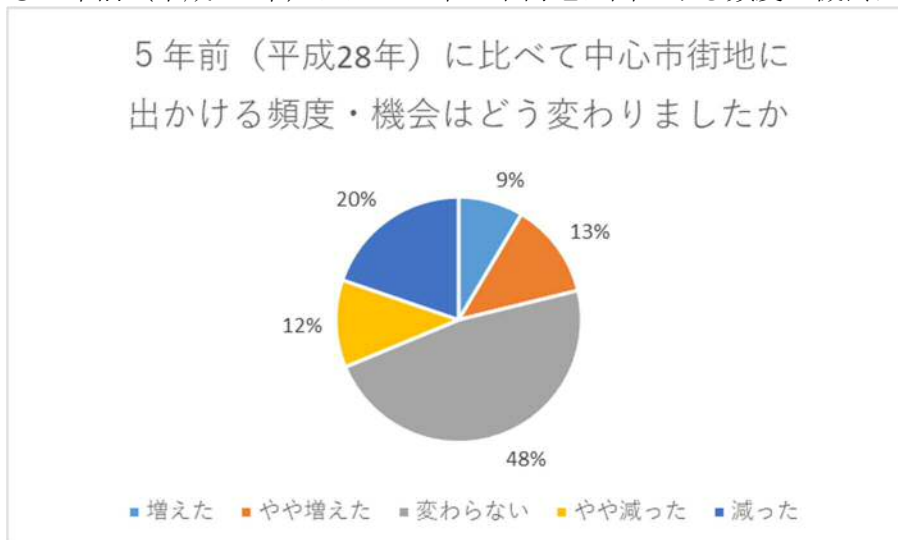
- ・約4割が「思う」「どちらかと言えば思う」との回答であった。
- ・本計画における施策に一定の効果があったものと言える。

○中心市街地が活性化してきたと思う主な理由



- ・活性化を感じた主な理由については、本計画において整備を進めた市民交流施設に魅力を感じているという意見が多く、本計画のテーマである「まちの顔づくり」の効果が表れている。

○5年前（平成28年）に比べて中心市街地に出かける頻度・機会はどう変わったか



- ・「減った」「やや減った」と回答した市民が「増えた」「やや増えた」と回答した市民を上回る結果となった。
- ・この回答結果から、市民交流施設の利用者以外の中心市街地の求心力が不十分であることが伺える。幅広い層が魅力を感じる中心市街地のまちづくりを推進する必要がある。

6. 今後の取組

市民アンケートの結果から、これまでの中心市街地活性化の取り組みについては、一定の成果があったものと考えられる。

しかしながら、居住人口の減少と、高齢化率の上昇は緩やかに進行していることや、空き家、空き店舗が多いというイメージも根強いことから、まちなかの回遊性の向上や居住促進、まちなかの商業活性化といったソフト事業については、今後も継続した取り組みが必要である。

そのため、本市では「越前市中心市街地活性化プラン」を令和4年3月に策定し、第3期中心市街地活性化基本計画で整備したハードの利活用と、残された課題について主にソフト面を強化することで、中心市街地の新たなにぎわいの創出を目指していく。

特に、本県では北陸新幹線の開業を間近に控えていることもあり、中心市街地の回遊性を向上させるため「ウォーカブルなまちづくり」をテーマとして施策を検討していく。

新たなプランにおいても、中心市街地の歩行者数や居住人口、開業件数といった、残された課題に対する目標指標を設定することで、中心市街地に対する継続的な評価と PDCA サイクルを継続していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
まちの顔づくり	市民交流施設の利用者数	64,541人 (H27)	77,420人 (R3)	189,100人	R4.3	A
暮らしの再生	施策による移住者数	64人増 (H27)	累計400人増 (H28~R3) 66.7人/年	383人増	H28~R3	B1
にぎわいの再生	活性化に寄与する市民活動の回数	56回 (H27)	92回 (R3)	127回	R4.3	A
	施策によるまちなか開業件数	5件 (H27)	累計24件 (H28~R3) 4件/年	40件	H28~R3	A

<達成状況の分類>

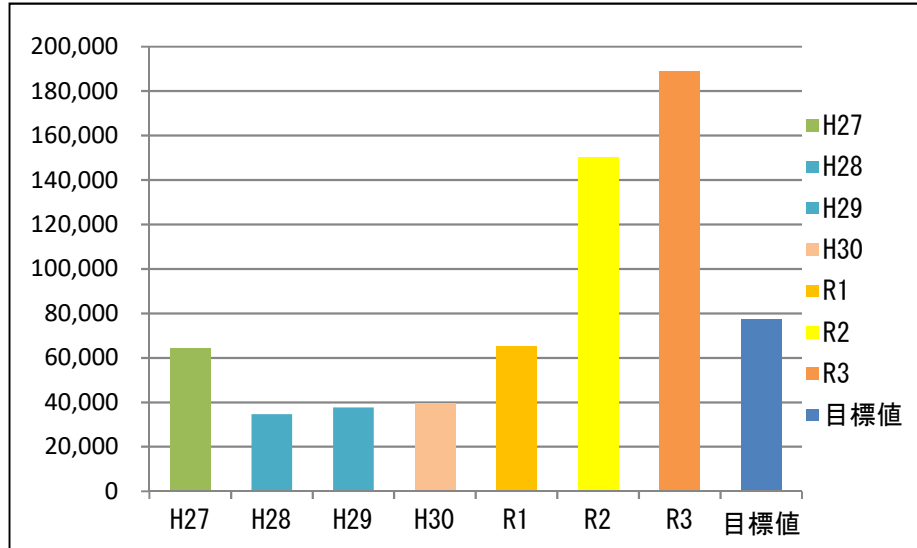
A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、
 B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない
 ※上記について、関連する事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は、小文字にして下さい。
 （注：小文字のa、b1、b2、cは下線を引いて下さい）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「市民交流施設の利用者数」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方 基本計画 P70～P72 参照

●調査結果と分析



※調査月：3月末

※調査主体：越前市

※調査対象：市民交流施設

〈分析内容〉

令和元年度に市民プラザたけふ、新庁舎及び新庁舎市民交流スペースの一部が供用開始したことで、利用者数が大きく増加した。また、令和2年度には新庁舎及び新庁舎市民交流スペースの本格的な供用開始が始まり、令和3年度には新庁舎屋外空間（庁舎前ひろば）の供用が始まったことで市民交流施設の整備が完了し、本計画のテーマの一つである「まちの顔」が一通り完成した。

利用者数は、福祉健康センターの増床および市民プラザたけふの整備により、市民団体等が活動する環境が整えられたこと、最後に完成した新庁舎屋外空間（庁舎前ひろば）において、新型コロナウイルス感染拡大の状況下ではあるものの、屋外空間を活用したイベントやキッチンカーの出店等をすすめ、新たな賑わいの創出に努めたことなどにより、基準値である平成27年度（64,541人）と比べると、113,413人と大幅な増加となり、目標値である77,420人を大きく上回る結果となった。新型コロナウイルス感染症の拡大終了後は更なる利用者の増加が期待されることである。

魅力的な施設整備と、各施設における利活用策の検討等によって目標を達成することができた。このため、達成状況をAとした。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 新庁舎建設事業（越前市）

事業実施期間	平成27年度～令和2年度【済】
事業概要	本庁舎内に、市民利用機能として、多目的ホールや控室、和室、調理室、視聴覚室などの生涯学習施設を中心に、約1,700㎡の屋内交流施設を整備する。施設の屋外には、雨天時でも利用可能な大屋根を整備する。

国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（武生北部地区））（国土交通省）（平成 28 年度～平成 30 年度） 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（本庁舎周辺地区））（国土交通省）（令和元年度） 都市構造再編集中支援事業（本庁舎周辺地区）（国土交通省）（令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 44,255 人 最新値 45,893 人（生涯学習センターおよび庁舎前ひろば利用者数） 達成状況：目標達成
達成した（出来なかった）理由	庁舎と一体的な施設として整備したことによる利用者の増加および、庁舎前ひろばを雨天時でも利用可能としたことで、多様なイベント開催が可能になったことによる。
計画終了後の状況及び事業効果	市民の活動の場として定着しつつあり、利用者も増加傾向にあることから、本計画の目標である「まちの顔」として機能しており、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

② 市民プラザたけふ整備事業（越前市）

事業実施期間	平成 30 年度～令和元年度【済】
事業概要	ゾーニング改修に対する費用の一部補助
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（本庁舎周辺地区））（国土交通省）（平成 30 年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 33,168 人 最新値 62,489 人 達成状況：目標達成
達成した（出来なかった）理由	市民団体が交流しやすいよう、オープンシェアオフィスの形態をとっていることや、各種団体の連携により運営を行うことで、積極的な利活用が図られたため。
計画終了後の状況及び事業効果	利用団体による合同イベントといった事業が展開されていることや、同時に整備された子育て拠点施設の利用者も増加していることから、本計画の目標である「まちの顔」として機能しており、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

●今後の対策

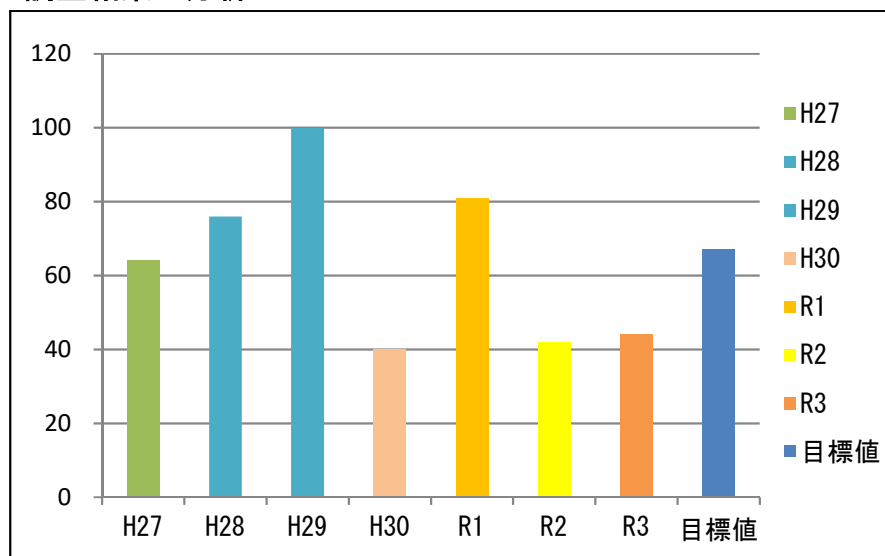
中心市街地での大きなハード整備は一通り完了したが、整備したハードを活かしたソフト事業（利活用策）を検討し、さらなる利用者の増加を目指す。

特に、新型コロナウイルスの感染拡大終息後は、施設利用をさらに促進するため、イベント実施団体等への支援事業の見直しや、イベント開催にかかるワンストップサービスの強化等を行い、市の賑わいの拠点となるよう事業を推進していく。

(2) 「施策による移住者数」(目標の達成状況【B1】)

※目標設定の考え方 基本計画 P73～P74 参照

●調査結果と分析



年	(単位：人)
H27	64 (基準年値)
H28	76
H29	100
H30	40
R1	81
R2	42
R3	44
H28 ～R3	383 (実績累計)
H28 ～R3	66.7/年 累計 400 (目標値)

※調査方法：住宅施策の被支援者数を集計

※調査月：3月末

※調査主体：越前市

※調査対象：新婚夫婦定住化支援事業、新住宅取得推進事業（まちなか住宅取得推進事業（H27～R1）を含む。）、まちなか共同住宅整備推進事業（民間優良共同住宅整備促進事業（H27）を含む。）、空き家等リフォーム支援事業、多世帯同居・近居住まい推進事業

〈分析内容〉

目標指標である移住者数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了した。計画期間中には、随時住宅施策の強化・見直しを図るとともに、エリア内での家屋のリフォームや新築への支援を進めるなど、移住者の増加に努めてきた。

しかしながら、市全体での住宅施策強化に伴い、メインターゲットとなるエリアが中心市街地から居住誘導区域等へと拡大しており、市全体としてみれば好調に実績を伸ばしているが、中心市街地での実績は伸び悩みが生じているのが現状である。

一方で、2年続けて中心市街地での住宅団地の整備が行われ順調に家が建っているほか、継続した周知の成果もあり、市全体では新住宅取得推進事業の実績が過去最高となるなど住宅施策の制度定着が進んでいる。

施策による移住者数は令和3年度44人であった。基準値である平成27年度（64人）と比べると、20人の減少となるが、計画期間内累計400人の目標値に対して、累計383人となり、概ね目標を達成する結果となったため、達成状況をB1とした。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① 新婚夫婦定住化支援事業（越前市）

事業実施期間	平成27年度～【R2で新規受付終了】
事業概要	婚姻1年以内の新婚夫婦が認定区域に居住するか、夫婦いずれかが転入して市内の民間賃貸住宅に居住する場合に、家賃の一部を補助。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（武生北部地区））（国土交通省）（平成28年度～平成29年度）

事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 120人（平成28年度～令和3年度累計） 最新値 66人 達成状況：未達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地において、入居できる共同住宅の戸数が少なかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地に居住することが、エリアの魅力を感じるきっかけとなり、そのまま定住する事例もあったことから、暮らしの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	令和3年度から移行した新制度では、住宅の取得やリフォームに対しても支援を拡充しており、更なる移住者の増加を図っている。

② 新住宅取得推進事業（旧事業：まちなか住宅取得推進事業）（越前市）

事業実施期間	平成27年度～【実施中】 ※平成27年度～令和元年度 まちなかまちなか住宅取得推進事業 令和2年度～ 新住宅取推進事業
事業概要	住宅を取得する場合、その取得費の一部を補助。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（武生北部地区）（国土交通省）（平成28年度～平成29年度） ・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（本庁舎周辺地区）と一体的に実施する効果促進事業）（国土交通省）（平成30年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 173人（平成28年度～令和3年度累計） 最新値 170人 達成状況：未達成
達成した（出来なかった）理由	市内全域で見ると住宅の建築数は伸びているが、中心市街地まで制度の効果を波及しきれなかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	良質な住宅の供給を支援することで、定住促進が図られていることから、暮らしの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き制度周知を行い、中心市街地でのさらなる住宅の増加を図る。

③ まちなか共同住宅整備推進事業（越前市）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】
事業概要	共同住宅を整備するものに対し、その整備費の一部及び既存建物の解体費を補助。
国の支援措置名及び支援期間	・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（武生北部地区）（国土交通省）（平成28年度～平成29年度） ・社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（本庁舎周辺地区）と一体的に実施する効果促進事業）（国土交通省）（平成30年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 90人（平成28年度～令和3年度累計） 最新値 65人 達成状況：未達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地において、まとまった土地の確保が難しく、また、問い合わせがあっても支援条件に合致した案件が少なかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地での人口減少傾向は続いているため、今後空き地の増加が見込まれるが、事業を継続することで、空き地の計画的な利用につながっていることから、暮らしの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き制度周知を行い、中心市街地での更なる共同住宅の増加を図る。

いて	る。
----	----

④ 空き家等リフォーム支援事業（越前市）

事業実施期間	平成 25 年度～【実施中】
事業概要	譲渡又は賃貸借を目的に空き家等をリフォームする場合に、その費用の一部を補助。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（武生北部地区））（国土交通省）（平成 28 年度～平成 29 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 24 人（平成 28 年度～令和 3 年度累計） ※多世帯同居・近居住まい推進事業合算 最新値 82 件（平成 28 年度～令和 3 年度累計） 達成状況：達成
達成した（出来なかった）理由	中心市街地にある空き家の再利用に対し、リフォーム支援が合致したため。
計画終了後の状況及び事業効果	空き家のリフォーム支援を行うことで、中心市街地の定住促進や、景観の保全につながったことから、暮らしの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き制度周知を行い、中心市街地での空き家の利活用を促進する。

⑤ 多世帯同居・近居住まい推進事業（越前市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	世帯が一つ以上増加するために住宅をリフォームする場合又は直系親族の居住する住宅の近くに住宅を取得する場合に、その費用の一部を補助。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業（地域住宅政策推進事業））（国土交通省）（平成 28 年度～令和 2 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 24 人（平成 28 年度～令和 3 年度累計） ※多世帯同居・近居住まい推進事業合算 最新値 82 件（平成 28 年度～令和 3 年度累計） 達成状況：達成
達成した（出来なかった）理由	同居のためのリフォームに対する支援制度が、ニーズと合致したため。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地への若い世代の定住化が進み、世帯員の増加が見込まれることから、暮らしの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き制度周知を行い、中心市街地での居住数増加を図る。

●今後の対策

施策の制度周知については、計画期間中の積極的な周知活動により、一定の効果があったものと認識している。

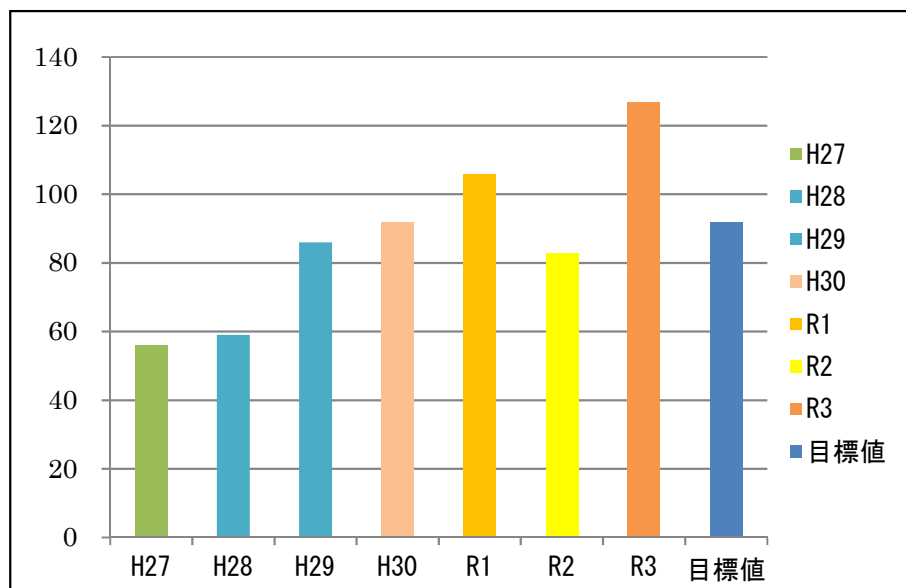
しかしながら、中心市街地全体の人口減少は続いており、継続した住宅施策の実施が必要である。

今後も、工務店や不動産業者、関係機関等と連携しながら、空き地への共同住宅の整備や、空き家・空き室など既存ストックの利活用を推進し、中心市街地への定住へ繋げていく。

(3) 「活性化に寄与する市民活動の回数」(目標の達成状況【A】)

※目標設定の考え方 基本計画 P75 参照

●調査結果と分析



年	(単位: 回)
H27	56 (基準年値)
H28	59
H29	86
H30	92
R1	106
R2	83
R3	127
R3	92 (目標値)

※調査方法: まちなかイベントサポート事業等、活性化に寄与するイベント回数を集計

※調査月: 3月末

※調査主体: 越前市

※調査対象: まちなかイベントサポート事業、寺社おこし事業、都市公園等利用促進イベント支援事業

〈分析内容〉

武生中央公園の整備が完了した平成 29 年頃から、イベントの開催数が大きく伸びている。武生中央公園が多くの家族が訪れるスポットとなったことで、認知度が向上したものと推測できる。また、市民プラザたけふの供用を開始した令和元年および庁舎前ひろばが完成した令和 3 年度についても開催数が増加しており、施設整備の効果が表れていることが分かる。

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により開催数が減少したものの、最終年度は各団体等が、新型コロナウイルス感染拡大の状況下でも開催可能なイベントを武生中央公園や庁舎前ひろばといった屋外施設を中心に開催したことにより、目標値を超える実績となった。

上記の理由から、達成状況を A とした。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. まちなかイベントサポート事業 (まちづくり武生 (株))

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	蔵の辻を中心とするまちなかで実施するイベントのサポート イベント情報の収集、発信、調整
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 15 回 (R3 イベント実施回数) 最新値 38 回 (R3 イベント実施回数) 達成状況: 目標達成
達成した (出来なかった) 理由	イベント実施団体への継続した支援の取組みと、令和 3 年度に供用開始した、庁舎前ひろばを始めとした、イベントに活用しやすい環境整

	備を進めたことによるもの。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、各施設を活用したイベントが多様な主体により継続して企画されていることから、にぎわいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	今後も庁舎前ひろばや蔵の辻、武生中央公園を中心とする中心市街地で開催されるイベント等を支援していく。

②. 寺社おこし事業（まちづくり武生（株））

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	地域資源である寺社を有効に活用して、中心市街地のにぎわいを図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 12 回（R3 イベント実施回数） 最新値 1 回（R3 イベント実施回数） 達成状況：目標未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症拡大により、寺社との積極的な連携や事業推進を図ることができなかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	各寺社との連携は引き続き行っており、御朱印めぐりといった新たな取り組みも進められていることから、にぎわいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	今後は、市観光協会を中心として、地域資源や観光資源として寺社との連携事業を推進していく。

③. 都市公園等利用促進イベント支援事業（越前市）

事業実施期間	平成 26 年度～【実施中】
事業概要	都市公園等の利用促進を図るため、開催するイベントに助成金を交付する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 14 回（R3 イベント実施回数） 最新値 29 回（R3 イベント実施回数） 達成状況：目標達成
達成した（出来なかった）理由	武生中央公園が県内でも有数の観光地となり、多様な団体に認知されるようになったため。
計画終了後の状況及び事業効果	これまでイベントを実施してきた団体が継続した実施の意向を示しており、また新たなプレイヤーも現れていることから、にぎわいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	令和 4 年度から、中心市街地エリアでのイベント開催を促進するため、小規模なイベントでも支援可能な新たな支援事業を創設し、移行済。

●今後の対策

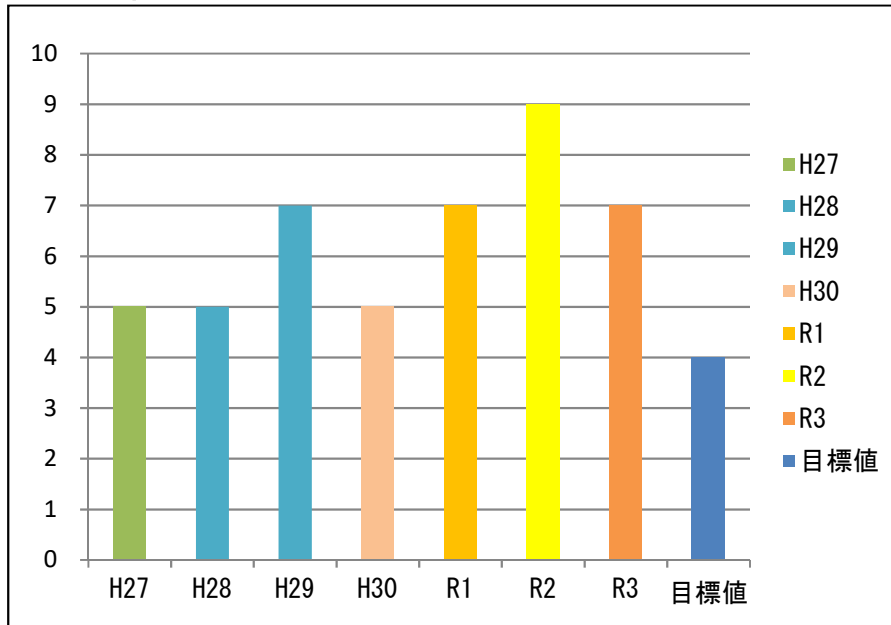
イベント開催を希望する団体への支援や、武生中央公園や庁舎前ひろばといった施設そのものの認知度の向上により、継続的なイベント開催の地盤は整いつつある。

今後も引き続き、プレイヤーへの支援に取り組むとともに、プレイヤー同士の連携強化や、新たなプレイヤーの育成を図るとともに、施設の魅力向上や利便性の向上に努め、イベントが開催しやすい環境づくりを推進していく。

（４）「施策によるまちなか開業件数」（ 目標の達成状況【A】 ）

※目標設定の考え方 基本計画 P76 参照

●調査結果と分析



年	(単位：件)
H27	5 (基準年値)
H28	5
H29	7
H30	5
R1	7
R2	9
R3	7
H28～ R3	40 (実績累計)
H28～ R3	4/年 累計 24 (目標値)

※調査方法：重点エリア商業活性化補助金、まちなか出店・改装促進支援事業、まちなか開業支援事業、空き店舗等活用事業等による開業件数を集計

※調査月：3月末

※調査主体：越前市

※調査対象：地元商店街、まちづくり会社等の民間事業者が主体となり策定した「商店街活性化プラン」に基づき、まちなか開業支援事業、空き店舗等活用事業等を活用して開業した店舗

〈分析内容〉

平成 27 年に設立された第 3 セクターであるにまちづくり武生(株)との連携により、空き家・空き店舗のリノベーションを中心とした開業が増え、計画当初より順調に実績を積み重ねることができた。

加えて、武生中央公園や市民交流施設、新庁舎の完成により中心市街地エリアの魅力が向上し、令和 2 年度には計画期間中最大となる年間 9 件の新規開業があるなど、着実に本計画の目標である「賑わいの再生」が進んでいるといえる。

上記の理由から、達成状況を A とした。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

① まちなか出店・改装促進支援事業 (まちづくり武生(株))

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地において店舗等を開設、改装する場合に助成金を交付
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 開業件数 24 件 (平成 28 年度～令和 3 年度 ※①～④の事業における合計) 最新値 開業件数 40 件 達成状況：達成
達成した(出来なかった)理由	まちづくり会社として、行政ではこれまでできなかったスピーディーな支援や、開業希望者に寄り添ったサポートを行ったことが、多くの

	開業につながったため。
計画終了後の状況及び事業効果	魅力的な店舗が中心市街地エリアで開業をはじめており、また、開業店舗の影響で、既存の店舗の改装も積極的に行われるなど、賑わいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き当事業により店舗等の内装、外装に関する設備投資に対し助成することにより、新規開業店等の支援を継続する。

② 重点エリア商業活性化事業（越前市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 3 年度【実施中】
事業概要	中心市街地内にさらに対象となるエリア、業種を絞り、店舗新築・店舗改修に対する補助を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 開業件数 24 件 （平成 28 年度～令和 3 年度 ※①～④の事業における合計） 最新値 開業件数 40 件 達成状況：達成
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社および①の出店・改装支援事業との連携を行うことで、開業希望者に適した支援を提供することができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	魅力的な店舗が中心市街地エリアで開業をはじめており、また、開業店舗の影響で、既存の店舗の改装も積極的に行われるなど、賑わいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き当事業により店舗等の内装、外装に関する設備投資に対し助成することにより、新規開業店等の支援を継続する。

③ まちなか開業支援事業（まちづくり武生（株））

事業実施期間	平成 27 年度～令和元年度【済】
事業概要	中心市街地における開業に助成金を交付
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（平成 29 年度～令和元年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 開業件数 24 件 （平成 28 年度～令和 3 年度 ※①～④の事業における合計） 最新値 開業件数 40 件 達成状況：達成
達成した（出来なかった）理由	まちづくり会社としての独自性を活かし、開業希望者に迅速な支援を行うことができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	本事業は令和元年度に終了しているが、本事業により開業した店舗の多くが現在も営業を継続しており、賑わいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	令和元年度をもって制度終了。

④ 空き店舗等活用事業（まちづくり武生（株））

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地において空き店舗の業種検討と誘致活動
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

事業目標値・最新値及び達成状況	目標値 開業件数 24 件 (平成 28 年度～令和 3 年度 ※①～④の事業における合計) 最新値 開業件数 40 件 達成状況：達成
達成した（出来なかった）理由	独自の事業計画により、エリアリノベーションを進め、まとまった区域での空き家・空き店舗の活用策を検討することで、エリアの価値を高め、多くの開業に結びつけることができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	本事業での成功事例をもとに、空き店舗のリノベーションによる開業が増加しており、暮らしの再生と賑わいの再生を目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	引き続き当事業を継続し、まちなかへの新規出店者誘致とあわせて、空き家・空き店舗の利活用を図る。

●今後の対策

今後も引き続き、まちづくり武生㈱と連携し、出店者の支援等を行っていく。

加えて、店舗に活用可能な空き家や空き店舗といったストックが徐々に減少していることから、ストック開発にも積極的に取り組み、商工会議所や民間事業者との連携を強化するとともに、中心市街地での長年の課題である駐車場整備や中心市街地にスポットを当てたフォトコンテストの開催などにより、中心市街地の回遊性を高めるなど、多面的に事業を実施することで、さらなる商業の活性化を推進していく。